

『今が、歴史を創る時』 個々人がつむじ風を起こそう

第15回 街へ出よう 外の風に身をさらそう

(毎月掲載)

永田 隆一

日本企業数は、現在400万社あり、上場企業数は4000社弱です。そして、最終利益を1000億円以上計上する企業は30～50社です。

ブリヂストンは、その一角をしめる超優良企業の一社であります。東京都小平市にテクノロジーセンターがあります。2005年の暑い夏のある日、私は、ブリヂストンで会議を終え、徒歩で自宅へ戻りました。時間は、夕方の5時過ぎ。八坂駅から久米川駅に向かう途中、焼き鳥屋「横山」を通り過ぎました。お店は、カウンター10席、路面で焼き鳥を焼いています。私は、踵を返し、「生ビールをください」と注文していました。ブリヂストンで、高純度SiC(シリコンカーバイド)の販売戦略に関する会議あとの高揚した気分と、うだるような暑さの中、スーツを着た私は、外で立ち飲みです。生ビールの美味しさは、格別でありました。

それ以来、月に2度ほど、土曜日の夕方、私は「横山」の外で立ち飲みをしています。お客は8割が常連で、大工、ペンキ職人、リタイア組、女子高校の英語教師、様々な人が集います。

夏の酷暑も、年末の4時過ぎには夜のとぼりが落ち始めるのも、肌で実感できるのは、楽しい感覚です。

そして、特に私のお気に入り、近くにスーパーマーケットや小学校、中学校があり、人の往来もちょうど良いくらいにあり、その行きかう人々を見ていると、とてもほほえましく感じ、いつも元気をいただけるのであります。

先日、テニスのクラブ活動を終えた中学2年生に、焼き鳥を1本ずつご馳走しました。そして、将来、何になりたいかを言いなさいと問いました。2人は、プロテニスプレーヤーです。そして、ひとりが「大学を出て、良い会社に就職をして、父と母に親孝行をします」と、はっきりと答えました。私は感動してしまい、もう1本ずつ焼き鳥を少年達にうながしました。ご馳走様でしたという少年達に「ありがとう、頑張れよ」と声をかけました。

少年が口にした、良い会社と、親孝行が、しばらく頭の中で、リフレインでありました。

また、郊外の住宅街ということもあり、お年寄りの方達も沢山通り過ぎます。「あのおじいさんは、懸命に、働いて家族を養ってきたのだろう、でも、背中がなぜか、とても寂しそうに感じるが…」「あのばあさんは、70歳は超えているだろうが、やけに化粧が濃い、きっと波乱万丈な人生を送ってきたのだろうが、

それにしても、歩き方に自信が満ち溢れているが…」

3月11日の地震のあと、市谷から5時間歩いて帰宅した30歳半ばのサラリーマンが、「上司から疎まれて、たこ助と呼ばれます。ストレスで、たまりません」というと、「受け入れろ、ありがとうございます。たこを3つ、たこたこたこ助と呼んでください」と答えてみるよと、アドバイスする男もいます。良いアドバイスであります。

たまには、酒癖の悪いおっさんもきますが、いづらい雰囲気をつくり、早めに退散していただく連携は見事であります。

地震のあと、街路灯の点灯は、一つ置きになりました。商店街の看板灯もとても控えめになりました。

《引き出しの中と外》

自分自身も含めて、普通の生活を送るさいの知恵は、引き出し(経験)の中からより良い方向を考えることであります。しかし、ビジネスの世界では、引き出しの中には答えがないことも多く、画期的なイノベーションを考えたときなどは特に、新しい発想や、驚くような事象を採用したほうが、成功する可能性が高まります。焼き鳥とホワイトボードの狭間で揺れる自分を考えたりもいたします。(毎月掲載)